



子供のやる気を引き出す言葉かけ～結果より努力したことを褒める～

1 「結果」を褒めるのは要注意！

「よくできたね」と褒めてあげたくなるのは親として自然な感覚です。しかし、できたことばかりを褒めていると、子供は次も同じように「よくできた」言われるような行動をとります。

その結果

- ・「できる」と分かっている簡単なものしかやらなくなります。
- ・難しい課題に取り組んだ時、プレッシャーを感じ、やる気が出なくなる。

2 子供の努力を褒めるのは効果的

努力のプロセスを褒める

- ・「たくさんがんばったから、できるようになったんだね」
- ・「努力したから、自分でできるようになってきたね」

3 的外れな褒め言葉は逆効果

それほどがんばらずに解ける簡単な問題なのに…。先生は私の能力を低く見ているのかな？



もっとやる気を引き出したい

不安

すごくよくがんばったね。

4 おだててやる気にさせてはいけない

褒めることで子供の行動をコントロール→子供は敏感に察知し、素直に受け取れなくなる
褒め言葉がないと行動しなくなる

5 「比較」は「結果」より悪い褒め方



クラスで1番ね！
〇〇ちゃんよりできたのね

- ・一時的には強い動機付けとなり効果がある
- ・長期的にやる気をサポートできない
→環境の変化で順位や評価が変わる
より激しい競争に身を置くことになり、これまでの結果が得にくくなる。

比較による動機づけは、子供のやる気が簡単にへし折られてしまう危険がある。

6 絶対にしてはいけない「最悪の声かけ」



こんな簡単な問題、何でできないの

簡単なはずなのに自分はできなかった

自信とやる気を失う



ネガティブな声かけは子供を委縮させる

◎必要なのは具体的なサポート

7 間違えた時こそが絶好のチャンス！→ポジティブに褒める

- ① 間違った瞬間にこそ脳が効果的に学べる
- ② チャレンジしたこと自体が素晴らしい
- ③ 間違いを客観的に説明する
- ④ 子供の学習進度に合っているか考える
- ⑤ やり方の方向性をアドバイスする

<子供が「分からない」と報告する場合>



「わからない」ということがわかるのは、しっかりと自分で考えている証拠です。

- まずは、子供の姿勢を認める
- 次に、問題の考え方やヒントを与える

<「分からない」が「やりたくない」の意思表示>



学習方法や条件が子供の学びに合っていない



改善点を見つける